

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0870200425
法人名	医療法人 圭愛会
事業所名	グループホーム ことぶき
所在地 (電話番号)	茨城県日立市大久保町2409-2 (電話)0294-34-3338

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 13.9人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/ 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4			
要介護5		要支援2	1名		
年齢	平均 84.3歳	最低	69歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	日立梅ヶ丘病院・聖麗メモリアル病院・滝齒科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

太平洋が見える高台に位置し、日当たりが良く、自然に囲まれた環境にある。職員は、家庭的な環境づくり、明るい雰囲気作りに心がけており、利用者の過ごし方からは、日々安心した生活を送る様子が窺えた。利用者、職員間のみならず、職員と管理者の間には、信頼関係が築かれ、管理者の質の高いケアへの熱意は、自然と職員に伝わっているようである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて、インシデント・アクシデントの記録を行い、毎月の勉強会では全職員で話し合い事故の未然防止を心がけ、改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対しては、職員全員取り組み前回の評価を振り返りながら今回の外部評価に取り組まれていた。また外部評価を職員全体で取り組むことにより新たな気づきなど外部評価を利用し職員がケアを提供するに当たり役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度開催し、地域や行政から多くの参加が得られるよう独自に工夫し、ホームの活動状況の報告を中心に、行政や家族、地域の人との意見交換を行っている。また外部評価の内容議事に関しては、その内容を記載し保管している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	認定調査時には、家族に協力を呼びかけ、同席してもらい、ホーム側から利用者の状況報告をしている。そこで家族との意見交換も行っている。また、その意見はケアプランへ反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの立地条件上、近隣への散歩等は難しいが、地域の祭りや行事へ参加する他に、毎月1度は利用者全員で近くの飲食店へ出向き、食事をしている。又、日常の買物として、スーパー、衣料品店、煎餅屋等へ行くなど、積極的に地域の人との交流する機会づくりに取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念について職員全員の会議で話し合い職員主体のもと理念にそったケアが提供できるよう、一人ひとりがその意味を理解しケアに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、ケアプラン作成時に理念について振り返り、確認している。また管理者は、理念が職員全体に啓発できるように会議やカンファレンスなどを使い話をするように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会や祭りなどの行事には利用者全員で参加している。地元のボランティアの受け入れを多数行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で分担して行っており、それにより、一人ひとり評価について再確認している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、家族などの参加を得ながら定期的に関き、情報交換を行っている。		

茨城県 グループホームことぶき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者や職員は、市や社会福祉協議会の研修会に参加し、そこでは、他のホームとの情報交換も行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月、請求書と合わせて利用者の状況を文書にて送付している。又、面会時や電話等でも随時報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回の家族会や、運営推進会議、認定調査時等で家族の意見を伝えてもらっている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新人の職員が夜勤に入ることによって利用者が不安にならないよう、勤務体制に配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体の勉強会とホーム内での勉強会を年間予定を立て、行っている。また、外部の研修会には、職員が交代で参加している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホームでの勉強会や、ホーム同士で職員の交換研修を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホームを見学してもらい、利用者や家族が納得した上で利用が開始できる体制がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と喜怒哀楽を共にし、利用者から学ぶ姿勢で日々接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント用紙を活用し、利用者の思いや意向を把握し、その人らしい暮らしが出来るようなケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族と話し合いをした上で、職員全体でも話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートを利用し設定されたプランの期限に沿ってケアプランの見直しが行われている。プランや目標に沿った日々の記録は、プランごとに番号付けされプランや目標に沿ったケアの提供内容が見やすく工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望により、家族の宿泊が可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を受診することが出来る。又、希望により、ホームで送迎が行える体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から本人や家族と話し合い、意向を確認し、方針を決めている。	○	今後は、職員全員で話し合い、施設としての方針やガイドラインの作成、意思確認書の作成に取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報取扱書の説明をし、同意を得ている。又、記録物は、書庫へ保管し、漏洩しないような配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで過ごせるよう、ケアが提供されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を利用者と職員が共同で調理し、全員で食べている。献立はユニットごとに考えており、旬の素材を多く使い、食べる楽しみと見る楽しみが両立した食事の内容になっていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望の時間にいつでも入浴出来る体制である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週に1度のユニット対抗のレクリエーションの実施や、ペットの世話、落ち葉掃きなどの役割を持ってもらうなど、利用者に合わせた、生活の質を上げるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月1度は、全員で外出に出かけたり、希望のある方には、週に2回の買物に行くなど、積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの中で、いつでもホームの出入りが自由に行える。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	合同訓練やマニュアルの整備などを法人全体で取り組んでいる。		日常的に1週間分程度の食品を保管しているが、今後は、災害時用として、長期保存用の水や缶詰等の備蓄の準備を検討し、取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの職員が週に1度、1日分のカロリー計算をしている。水分補給量については、日々の記録の中で大まかに確認出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはこたつがあり、利用者が自由に一息つける場所となっていた。季節の花や置物が飾られ、窓際にはカリンが干してあるなど、家庭的な雰囲気が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、畳部屋もあり、利用者の希望や身体状況により、布団かベッドの使用が選択出来る。又、各部屋にはベランダがあり、一人一人自分の洗濯物を干すことが出来る。		